日本港湾経済学会年報のタイトル（14ポイント、MSゴチ）

－副題　12ポイント、MS明朝－

　筆者名（12ポイント・MS明朝）

（所属は10.5ポイント）

目　次

　Ⅰ．目次は大項目のみ、9ポント、MS明朝

　Ⅱ．数字はローマ数字

　Ⅲ．英数字はCentury

　　Ⅳ．左寄せ

　　Ⅴ．書評の場合、目次は不要

Ⅰ．大項目は11ポンイント、MSゴチック

　本文の文章は、原則として10.5ポイントでMS明朝（英数字はCentury）、常用漢字、現代かなづかいを使用し、横書きとする。

　原稿は42字×36行とする。なお、ワードのページレイアウトでの指定は文字数の「ずれ」が生じるので、実際に数えて調整すること。

Ⅱ．大項目

１．中項目は10.5ポイント、MSゴチック

（１）小項目は10.5ポイント、MS明朝

外国の国名、地名、人名などは、漢字による表記が慣例となっている場合を除き、原則としてカタカナ書きとする。なお、一般化していない固有の名称（地名、人名、機関名、会社名など）は、最初に限りその原語（ただし、特殊な外国語の場合は、そのローマ字化したもの）をかっこ内に付記する。また読み方がはっきりしない人名、地名は原綴のままでもかまわない。

　（例）　\*ソリージャ（A. Zorrilla）は……ソリージャの指摘によれば……

　　　　　\*産銅公社（Corporacion del Cobre―略称CODELCO）が……

（２）単位の表記について

外国語、外国（中国を除く）の度量衡および貨幣の単位は、カタカナ書きとする。

　　　　　　　（例）コーヒー、ガラス、メートル、トン、ドルただし、パーセントは記号（%）を使用し、図・表では一般的な単位は、記号（m、g、tなど）を使用する。

（３）数字の表記について

数字は、原則として算用数字を使用する。ただし、本文中ではコンマを用いず、万以上の数字には万、億、兆を用いる。

（例）23億500万円（または23.05億円）、1万2000人（または1.2万人）、第5表、0～5歳

「第一に」、「一貫して」、「第一次大戦」など熟語に入っている数字は、漢数字を用いる。継続を示す場合は～を使用する。

　（例）　1970～74年、30～40%

Ⅲ．大項目

１．図と表について

図および表は、それぞれ「通し番号」を付し、表題をつけ、表は上、図は下に記入する。必ず単位、出所を明記する。表について注記が必要な場合には、出所を示した後に続ける。

表1　表のタイトル（10.5ポイント、MSゴチック）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 項目１ | 項目２ | 備考 |
| 1990年 |  |  |  |
| 2000年 |  |  |  |
| 2010年 |  |  |  |

　　　　　　　　　　出所）\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*。



図1　グラフのタイトル（10.5ポイント、MSゴチック）

出所）\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*。

２．中項目

注は通し番号（アラビア数字）を付す。注の原稿は本文の後にまとめる（文末脚注）。なお、参考文献は、必要に応じて、最終ページに記載する[[1]](#endnote-1)。

　（例）　日本港湾経済学会年報No.56によれば、・・・・とある１。

　　　　　さらには、No.57によれば・・・・とある２。

３．中項目

　引用文献、参考文献の表記には、下記の方式を用いる。

（１）邦文文献

a.　単行本

著書（出版年・西暦）『書名』（シリーズ名）出版社、引用ページ。

（例）　岩田慶治（1969）『東南アジアのこころ』（アジアを見る目30）アジア経済研究所、104ページ。

b.　論文

執筆者（出版年・西暦）「論文名」（編者『書名』出版社）引用ページ。

（例）　内田義彦（1965）「日本思想史におけるヴェーバー的問題」（大塚久雄編

『マックス・ヴェーバー研究』東大出版会）、99ページ。

c.　雑誌論文

執筆者（出版年・月）「論文名」『雑誌名』巻号、引用ページ。

（例）吉村　励（1972.10）「国民教育権と大学の自治」『経済学雑誌』67巻4号、44ページ。

（２）外国文献

\*著者名は原則として姓名を倒置し、共著の場合2人目からは倒置しない。

\*邦訳のある場合はカッコ内に記述する。

a.　単行本

著書（出版年）, 書名（イタリック）, 版次, 出版地, 出版社, 引用ページ.

（例）　Samuelson, P. A.（1964）, *Economics: An Introductory Analysis*, 6th ed., New York McGraw-Hill, pp. 15-18.［都留重人訳（1966）『経済学―入門的分析－』岩波書店］

b.　論文

執筆者（出版年）, “論文名” in 書名（イタリック）, ed. by編者名, 出版地, 出版社, 引用ページ.

（例）　Chakravarty, S. and R. S. Echaus(1964), “Choice Elements in International Planning” in *Capital Formation and Economic Development*, ed. by P. N. Roseinstein Rodan, London, Allen & Unwin, pp68-82.

c.　雑誌論文

執筆者（出版年・月）, “論文名”, 雑誌名（イタリック）, 巻, 号（年月）, 引用ページ.

（例） Locanathan, P. S. (Jan/Mar. 1968), “Regional Co-operation and Development”, *Indian Economic Journal*, Vol. 15 No3, pp. 39-40.

（二度目以後の引用について）

（１）邦文文献

ⅰ.　すぐ前に引用文献がある場合

同上書（同上論文、…誌、…紙）、引用ページ。

ⅱ.　間に他の引用文献がある場合

姓、前掲書（初出の注番号）、引用ページ。

（例）　安藤、前掲書（注5）、184ページ。

（２）外国文献

（例）　5)　Black, B. (Jan. 1983), “A Generalization of Destination Effects in Special Interaction Modeling”, *Economic Geography*, Vol. 59. No.1, pp. 16-18.

　　　　6)　*Ibid*. pp. 20-30

（例）　1)　Keynes, J. M., *The General Theory of Employment, Interest and Money*, Macmillan, p. 30.

　　　　2)　Mill, J. S., *On Liberty*.

　　　　3)　Keynes, *op. cit*., p. 64.

（同一著者の著作が2点以上ある場合）

（１）邦文文献

姓『書名』（または「論文名」を適当な長さに略）、引用ページ。

（例）　川田編「インドの経済と…」、109ページ。

（２）外国文献

（例）　Shult, Economic Crises、……pp. 8-15.

３．注としてURLを記載する場合（10.5ポイント、MSゴチック）

以下のように表記する。

（例）　　○○○ホームページhttp://www……（最終閲覧日：●年●月●日）

本文例

国土交通省海事局『海事レポート』2019年,83頁は，邦船社の2018年における貨物の積み取り量と運賃収入について定期船（コンテナ船について別途うち数を示している）、不定期船、油槽船ごとに取りまとめている。その数字から平均運賃を計算すると、1重量トンあたり、定期船：9,518円（うちコンテナ船9,666円）、不定期船：2,408円、油槽船：1,801円となる。

他方、同上書の80頁は、2018年における日本の海上貿易貨物の品目毎の輸入量と輸入金額、輸出量と輸出金額を取りまとめている。そこから1重量トンあたりの商品の輸入価格は、鉄鉱石が8,000円、石炭が1万5,000円と計算できる。輸入CIF価格に占める運賃の割合は、それゆえ鉄鉱石で30.1％、石炭で16.1％に達する。

以上

1. ヘッダー、フッター、ページの割振りは、事務局にて行います。 [↑](#endnote-ref-1)